

PL 遂断詞に学ぶ

まえがき

神様を拝む時の言葉——神拝詞——と定められているのが「PL 遂断詞」です。したがって、遂断詞を奏上する時は一語一語に誠を込め、はつきりと唱える……と教えられています。しかし私は教会で「PL 遂断詞」の解説を聞いたことがありません。そこでこの場を借りて「PL 遂断詞」の解説をしようと思いいつたのです。

本書はPL 遂断詞の一語一語の意味を解き明かすことを目的にしています。奏上するに当たっては、遂断詞に込められているおしえおやの遂断を頂くことを忘れてはならないと思います。PLの信仰のおかげはおしえおやの遂断の徳を頂くことによるのです。

私がPL教師を拝命して一年目の年に、金沢の能登半島の根っこにある町の会員宅を訪問した時のことです。肺病を患って、寝たきり状態の人の所に案内されました。昭和三十年のことで、ペニシリンなどの特效薬は話には聞いていても手に入ることなど望むべくもない状態でした。

私自身、高校三年の時に肺病を患うという体験をしていましたが、病床に伏せたままという重体の人に対して何と言っているのか分からないので、「お身代わり」（現在は祖^{おやしきり}遂断）をお願いし、その後「人間は神様から、世のため人のために働くように神業^{かんわざ}づけられて生かされて生きていくのです。だからあなたも体の動く範囲でいいから、部屋のお掃除をするなりガラスを拭くなりしなさい」と言いおいてその部屋から飛び出したのです。

私は先に外に出て、道案内をしてくれた補教師さんを待つていたのですが、なかなか出てきません。何かあつたのではないかと心配になつてきた時、その補教師さんが外に出てこられたのです。

「先生、先生、大変です」と言われるので「何か起こつたのですか」と尋ねると「今まで寝返りを打つのも大変だつたのに、今は何ともない、と言つて、寢床の上に横たわつては何度も何度も起き上がつて試しているのです」と。

この話を聞いて、私自身がびつくりしました。私には寢床に寝たきりの人を起き上がらせるほどの力はありません。どうしたことだろうと考へている内に「理外の理」という言葉に思い至つたのです。

理外の理とは、常識では推測できない神秘的な道理という意味ですが、

信仰は理外の理を示すものであり、いくら理性で理解しようとしても分かることはないのです。そう心を決めて以来、理外の理を信じて実行するほかはないのだと思つて今日まで来ています。

PL 遂断詞の言葉の意味を知ること、PL 遂断詞を理解できることがいいのではなく、PL 遂断詞を大きな声で奏上して——もつとも周りの人の迷惑にならない程度に声を抑えて奏上することもありませんが——その時に心に響いたことを実行するようにしてください。ありがたいことを教えていただけます。

目次

まえがき

P L 遂断詞

しるりのことば

1章 P Lの教えの神髄

2章 神様が祝福する道

3章 人としての在り方

4章 「神律」しんりつと「人律」じんりつ

55— 41— 27— 13— 10— 4

5章 人を尊ぶ在り方

6章 「実行律」を味わう

7章 「みおしえ」のありがたさ

8章 幸せへの道

9章 信仰のおかげを頂く

10章 神に依より自由に生きる

— 139 125 111 - 97 - 83 69

PL 遂断詞 しきりのことば

貴光たかひかります大元みやおおかみ靈たまは 現世うつしよの万象あらゆるものを生うませたまい芸術つぐりたま
い 天地陰陽あめつちかげひの約束きめごとにより 日ひに日けに育そだて太ふとらせたまう こ
の真理ことわりにより成なり生あれしあらゆる人ひとは 大神おおかみの恩頼みたまのふゆのまにま
に天地あめつちの法則みのりさながら 世よのため人ひとのため芸術生活うるわしきたつきに生いくる
個性さがを授さずかり 人ひとの世よの永遠とわの自由みさちに献ささげまつることを道みちと
定さだめしめたまう 人ひとは神かみの表あらわれ現あらわにして万物よろずのものの長おさにしあれば
人ひとより尊とうときものはなく 世よのあらゆるものは各おのも各おのもその名な
に因ちなみて真道まみちをつけ 人ひとのためあらわに現あらわしたまえるものと知しりて
何事なにごともその元もとを忘わすれず 約束きめごとに違たがわず 悟さとるとともに働はたらかし

己おのれを虚むなしくして人ひとを尊とうとみ 怒いかることなく急いそぐことなく憂うれうる
ことなく悲かなしむことなく 即つかず離はなれず真まことの個性さがを働はたらかし
この道みちを守りなば自由みさちを蒙かかふり 行おこなわざれば不自由くるしみ病氣みわづらいとなる
べきことを わが大おおかみ神かみは世よと人ひとと子ことを鏡かがみとして映うつしつづ知し
らしめたまう されば人ひとの世よの災難くるしみ病苦みわづらいは みしらせと知し
て何事なにごとも喜よろこび 神業かんわざのまにまに我執おのれを捨すてて践ふみ行おこなうこそ
人ひとの人ひとたる真まことの道みちと悟さとりて 今いまより後のちはひたすらにみおしえ
を守り 芸術生活うゑるわしきたつきの上うゑに自みずからの個性まことを表あらわすにより 光遍ひかりあまねき
大元靈みとおおかみの恩頼みたまのふゆもて 永ながく楽たのしく現世うつしよの幸福みさちを蒙かかふらしめたまえ
と 畏かしこみ恐かしこみも申もうす



1
章

**P
L
の
教
え
の
神
髓**
